

## 49年続く伝統ある野球少年団

チームの前身は昭和48年に結成された一已中央スポーツ少年団であり、平成13年に現在の深川一已バトルス野球スポーツ少年団となりました。団員は一已小、北新小、納内小の児童のほか、近隣市町を含め野球ができる環境にない児童も受け入れ、日々の練習に励んでいます。

### 全国大会出場経過

全道から83チームが参加したC1トーナメントで「ファイナル」まで勝ち残った結果、昨秋の全道選抜大会ベスト16などの実績が評価され、北海道チャンピオンシップ協会から北海道代表として出場する第一推薦チームに選出されました。

### 初出場の全国大会で初優勝

結成以来、初の全国大会出場を果たしたバトルスサイン。大会期間中は猛暑が続く3人の選手が熱中症になるアクシデントに見舞われました。そのようなチーム状況の中でも、ベンチ一丸となり快進撃を続け、決勝の舞台まで駒を進めます。決勝戦前「優勝してマウンドで一本指を掲げるぞ！」と気合いを入れ試合に臨んだ選手たちは、岡山県代表の「藤田軟式野球スポーツ少年団」との激闘の末、4・3で勝利し、出場した全28チームの頂点に輝きました。

### 「すべての関係者に感謝」

8月9日、バトルスサインは市役所へ優勝報告に訪れ、チームを指揮した柴田監督が試合経過などを報告した後、主将の松井啓輔さんが「みなで力を合わせて優勝することができました。このような経験ができたのは、みなさんの支援のおかげです。これからも全力プレーで戦っていきますので、声援をよろしくお願いします」と支えてくれた方への感謝の言葉を添えて優勝報告をしました。



### 2022.8.9市役所大会議室



## 深川一已バトルス野球スポーツ少年団



7月30日(土)～8月1日(月)の間、徳島県阿南市で開催された「第10回野球のまち阿南少年野球全国大会」に出場した一已バトルスが優勝という最高の成績を残しました。

今日は、全国大会初出場で初優勝の偉業を成し遂げた同チームの紹介と優勝に導いた柴田監督にお話を伺いました。

※一已バトルス編纂



## 野球のまち阿南少年野球全国大会優勝

### お話を聞きました



しばたかずひろ 柴田和宏監督

初の全国大会出場。現地では選手たちには何か変化は見られましたが。

全国の舞台に立つだけで満足するのではなく、むしろ思い切り野球をしてやる！という気迫に満ちあふれていました。

試合当日の気温も連日34℃、グラウンドはそれ以上の暑さで、沖縄県のチームの選手でさえも熱中症になるほどでしたが、選手たちは、私たちがスタッフからの心配の声掛けに「大丈夫です！」と目の前の強豪との試合に闘志を燃やしており、その背中はとても頼もしかったです。

今回の大会で優勝できた要因をどのように考えていますか。

「全国大会出場」を目標に定め、それを意識して取り組んできた練習の成果や全道トップクラスの實力を備えた少年団との練習試合を数多く経験できたことが大きな要因だったと思います。また、選手た

ちはそれぞれ自身の武器をしつかり理解しており、控えの選手もいつでも出場できる準備をするなど、チームが総力をあげて試合に臨めたことも要因の一つと考えます。

そして何よりも野球に打ち込める環境にあることです。地域の方、学校の先生方、保護者の方など、チームの支えとなるみなさんのおかげで、私たちは全力で野球ができています。今回の大会でも保護者の方がベンチに入って、水分補給のサポートをしてくれたおかげで、私は野球のことだけに集中できました。そういったフォローもあって今回の結果につながり、本当に感謝しています。

### 今後の展望を教えてください。

子どもたちには、家庭や学校生活では味わうことができないうれしさや悔しさなどを少年団活動を通じて経験し、心身ともに成長してほしいと思っています。そして、これからも「野球がしたい」という初心の気持ちを忘れずに成長した選手一人一人が主役になれるチームを築き上げていきたいです。

